

1) 棚割情報収集プロセス

アクション	誰から	どこへ	何を	いつ	どのように実現するのか？(オプション)					
					メーカー	メーカーDP	卸	卸DP	小売	小売DP
情報提供依頼(Subscription)登録 検討課題3 「運用ルール、制約の具体化」に対応	卸(小売)	卸DP(小売DP)	情報提供依頼	棚割情報提供前	[アクション] ・なし	[アクション] ・なし	[アクション] ・卸が棚割単品画像の情報が必要な場合、対象メーカーに対して、情報提供して欲しい単位(本社一本/営業担当者単位 等)でSubscriptionを行う。 ・Subscriptionは「対象メーカーGLN」と「対象商品カテゴリ」を指定して実施することを想定。(1回出してしまえば、Subの取り下げを行うまで有効、情報提供が必要となる度にSubを行う必要は無い。)	[アクション] ・なし	[アクション] ・小売が棚割単品画像の情報が必要な場合、対象メーカー(もしくは帳合先卸)に対して、情報提供して欲しい単位(本社一本/バイヤー単位 等)でSubscriptionを行う。 ・Subscriptionは、「対象メーカーGLN(もしくは帳合先卸GLN)」と「対象商品カテゴリ」を指定して実施することを想定。(1回出してしまえば、Subの取り下げを行うまで有効、情報提供が必要となる度にSubを行う必要は無い。)	[アクション] ・Subscriptionに対するバリデーションの実施。
情報提供依頼(Subscription)送信	卸DP(小売DP)	メーカーDP	情報提供依頼	情報提供依頼を受け取った後	[アクション] ・なし	[アクション] ・送信されてきたSubscriptionを受信。	[アクション] ・なし	[アクション] ・卸の送信してきたSubscriptionをメーカーDPに送信。(Global標準として規定されているアクション)	[アクション] ・なし	[アクション] ・小売が送信したSubscriptionを、取引先メーカー(卸)のホームDPに送信する。(Global標準として規定されているアクション)
新規登録 検討課題2 「新商品情報の同期化タイミング」に対応	メーカー	メーカーDP	棚割情報 ・商品コード ・商品名 ・規格 ・寸法、重量 ・棚割画像	卸(小売)の指定する期日まで	[アクション] ・棚割情報(左記情報項目)をメーカーDPに登録。 ・棚割情報登録後、Publicationを実施。 【確認ポイント】 ・実証実験時の「棚割情報収集」に関しては、棚割情報提供タイミングは現状維持を前提とする。(なお、さらに早期化を行う場合には、実験参加企業間で取り決めを行うこととする。)	[アクション] ・棚割情報に対するバリデーションの実施。 ・卸DPの送信してきたSubscriptionを受信し、Publicationとのマッチングを図る。商品情報の送付先リストの作成 ・マッチングが成立した卸DPに対し、棚割情報を送信。 (Global標準として規定されているアクション)	[アクション] ・特になし 【確認ポイント】 ・実証実験時の「棚割情報収集」に関しては、棚割情報提供タイミングは現状維持を前提とする。(なお、さらに早期化を行う場合には、実験参加企業間で取り決めを行うこととする。)	[アクション] ・なし	[アクション] ・特になし 【確認ポイント】 ・実証実験時の「棚割情報収集」に関しては、棚割情報提供タイミングは現状維持を前提とする。(なお、さらに早期化を行う場合には、実験参加企業間で取り決めを行うこととする。)	[アクション] ・なし
情報公開通知(Publication)登録 検討課題3 「運用ルール、制約の具体化」に対応	メーカー	メーカーDP	情報公開通知 ・GTIN ・GLN ・TM	卸(小売)の指定する期日まで	[アクション] ・棚割情報登録後、Publicationを実施。 ・Publicationは、必要に応じて、公開先別の公開日制御を実施。 【確認ポイント】 ・Publicationの公開パターンは下記を想定。 取引先別の公開制御 一般公開 現在、情報公開通知実施時における公開先・公開日の指定は、GDSプロセスにおいては規定されていないため、技術的な検討が必要となる。 【技術的な検討課題として提示】	[アクション] ・卸(小売)DPの送信してきたSubscriptionを受信し、Publicationとのマッチングを図る。商品情報の送付先リストの作成 (Global標準として規定されているアクション)	[アクション] ・なし	[アクション] ・なし	[アクション] ・なし	[アクション] ・なし
棚割情報(CIN)送信	メーカーDP	卸DP(小売DP)	棚割情報 ・商品コード ・商品名 ・規格 ・寸法、重量 ・棚割画像	卸(小売)の指定する期日まで	[アクション] ・なし	[アクション] ・マッチングが成立した卸(小売)DPに対し、棚割情報を送信。 (Global標準として規定されているアクション)	[アクション] ・なし	[アクション] ・マッチング成立後、メーカーDPより、棚割情報を受信。 (Global標準として規定されているアクション)	[アクション] ・なし	[アクション] ・マッチング成立後、メーカー(卸)DPより、棚割情報を受信。 (Global標準として規定されているアクション)
通知	卸DP(小売DP)	卸(小売)	通知	棚割情報(CIN)受信時	[アクション] ・なし	[アクション] ・なし	[アクション] ・棚割情報を受信した段階で、卸は卸DPから棚割情報受信の通知を受ける。 ・卸は、通知の受け取り方について、事前に卸DPと取り決めを行う。(予めValidationルールとして決定しておく。)現在のところ、受け取り方のパターンの想定は以下のとおり。 Subscriptionで依頼した棚割情報が全て揃った時点で通知 全て揃っていないくても、棚割情報が届いた時点で毎回通知	[アクション] ・棚割情報を受信した段階で、卸DPは卸に対し、棚割情報の受信を通知。 ・棚割情報受信時の通知の仕方は卸との取り決めによる。 【確認ポイント】 ・卸DPは、どのレベルまでの通知が実現可能か？(卸の要望に対し、現時点で、どの程度のレベルまでなら対応可能か？)	[アクション] ・棚割情報を受信した段階で、小売は小売DPから棚割情報受信の通知を受ける。 ・小売は、通知の受け取り方について、事前に小売DPと取り決めを行う。(予めValidationルールとして決定しておく。)現在のところ、受け取り方のパターンの想定は以下のとおり。 Subscriptionで依頼した棚割情報が全て揃った時点で通知 全て揃っていないくても、棚割情報が届いた時点で毎回通知	[アクション] ・棚割情報を受信した段階で、小売DPは小売に対し、棚割情報の受信を通知。 ・棚割情報受信時の通知の仕方は小売との取り決めによる。 【確認ポイント】 ・小売DPは、どのレベルまでの通知が実現可能か？(小売の要望に対し、現時点で、どの程度のレベルまでなら対応可能か？)
閲覧	卸(小売)	卸DP(小売DP)	棚割情報 ・商品コード ・商品名 ・規格 ・寸法、重量 ・棚割画像	通知受信以降	[アクション] ・なし	[アクション] ・なし	[アクション] ・卸DPが受信した棚割情報を閲覧し、必要に応じて、自社DBに取り込みを行う。	【確認ポイント】 ・現時点で、どのような閲覧ビューを準備できるか？ ・卸が、必要に応じて自社DBに取り込みを行うことができる仕組は提供可能か？	[アクション] ・小売DPが受信した棚割情報を閲覧し、必要に応じて、自社DBに取り込みを行う。(当該時点では、必ずしも商品マスタへの取り込みは行わないことを想定。)	【確認ポイント】 ・現時点で、どのような閲覧ビューを準備できるか？ ・小売が、必要に応じて自社DBに取り込みを行うことができる仕組は提供可能か？
受領確認(CIC)送信 検討課題3 「運用ルール、制約の具体化」に対応	卸(卸DP)(小売(小売DP))	メーカーDP	受領確認	情報閲覧時	[アクション] ・なし	[アクション] ・卸(小売)DPから受け取ったCIC情報を管理(sync Listとして)。 (Global標準として規定されているアクション)	[アクション] ・閲覧した棚割情報の内、登録内容変更時に再度情報提供が必要な商品はaccept/Syncを行う。 【確認ポイント】 ・CICの返し方について、卸DPに対する要件は以下のとおりである。実現方法については、技術的な検討が必要。 ・「受け取った棚割情報は全てsyncでCICを返す」というサービスの提供。(仮にRejectするものがあった場合は、担当者が自ら指定する形となる) 【技術的な検討課題として提示】	[アクション] ・卸から受け取ったCIC情報を、当該メーカーDPに送信する。 (Global標準として規定されているアクション) 【確認ポイント】 ・「受け取った棚割情報は全てsyncでCICを返す」というサービスの提供は可能か？	[アクション] ・閲覧した棚割情報の内、登録内容変更時に再度情報提供が必要な商品はaccept/Syncを行う。 (Global標準として規定されているアクション) 【確認ポイント】 ・CICの返し方について、小売DPに対する要件は以下のとおりである。実現方法については、技術的な検討が必要。 ・「受け取った棚割情報は全てsyncでCICを返す」というサービスの提供。(仮にRejectするものがあった場合は、小売担当者が自ら指定する形となる) 【技術的な検討課題として提示】	[アクション] ・小売から受け取ったCIC情報を、当該メーカー(卸)DPに送信する。 (Global標準として規定されているアクション) 【確認ポイント】 ・「受け取った棚割情報は全てsyncでCICを返す」というサービスの提供は可能か？

2)商品マスタ登録プロセス

(1)新規取扱商品マスタ登録

	誰から	どこへ	何を	いつ	どのように実現するのか？(オプション)					
					メーカー	メーカーDP	卸	卸DP	小売	小売DP
<div>商品情報登録</div> <div>検討課題1 「同期化する情報項目」に対応</div>	卸	卸DP	関係依存項目 (原則的に基本項目はメーカーの入力したものをそのまま使う)	商談後	<div>【アクション】</div> <div>・なし</div>	<div>【アクション】</div> <div>・なし</div>	<div>【アクション】</div> <div>・商談で取扱が決定した商品の商品情報(関係依存項目)をGTIN単位でホームDPに登録する。</div> <div>・この時、商品情報は、「プライベート扱い」として登録される必要がある。</div> <div>・なお、卸は、基本項目を、メーカーから事前に入手しておく必要がある。</div> <div>【決定事項】</div> <div>・提供が必要な関係依存項目は、小売毎に異なることが想定される。そのため、円滑な情報提供を実現するためには、卸と小売の双方が必要な関係依存項目について、容易に共有できる仕組みの構築が必要となる。</div> <div>・バリデーションルール等の検討が必要。</div> <div>【技術的な検討課題として提示】</div> <div>卸と小売が、入力が必要な関係依存項目を容易に共有できる仕組(関係依存項目まで含んだスキーマ、関係依存項目に対応した入力・閲覧のためのコントロール機能等)の構築に関する検討が必要。</div>	<div>【アクション】</div> <div>・卸の登録した商品情報のバリデーションを行う。</div> <div>(Global標準として規定されているアクション)</div>	<div>【決定事項】</div> <div>・提供が必要な関係依存項目は、小売毎に異なることが想定される。そのため、円滑な情報提供を実現するためには、卸と小売の双方が必要な関係依存項目について、容易に共有できる仕組みの構築が必要となる。</div> <div>・バリデーションルール等の検討が必要。</div> <div>【技術的な検討課題として提示】</div> <div>卸と小売が、入力が必要な関係依存項目を容易に共有できる仕組(関係依存項目まで含んだスキーマ、関係依存項目に対応した入力・閲覧のためのコントロール機能等)の構築に関する検討が必要。</div>	<div>【アクション】</div> <div>・なし</div>
<div>メーカーからの基本項目提供</div> <div>検討課題2 「商品情報の同期化タイミング」に対応</div>	メーカー	メーカーDP	基本項目	自社新商品正式発表時	<div>【アクション】</div> <div>・商品情報(基本項目)をメーカーDPに登録。</div> <div>・商品情報登録後、Publicationを実施。</div>	<div>【アクション】</div> <div>・登録された商品情報のバリデーションを行う。</div> <div>・卸DPの送信してきたSubscriptionを受信し、Publicationとのマッチングを図る。 商品情報の送付先リストの作成</div> <div>・マッチングが成立した卸DPに対し、商品情報(基本項目)を送信。</div> <div>(Global標準として規定されているアクション)</div>	<div>【アクション】</div> <div>・商品情報提供を依頼するメーカーのホームDPに対し、事前にSubscriptionを行っておくことが前提となる。</div> <div>・Subscriptionは「対象メーカーGLN」と「対象商品カテゴリ」を指定して実施することを想定。(1回出してしまえば、Subの取り下げを行うまで有効。情報提供が必要となる度にSubを行う必要は無い。)</div> <div>【決定事項】</div> <div>・実証実験時の「商品マスタ登録」に関しては、商品情報提供タイミングは現状維持を前提とする。ただし、さらに早期化を行う場合には、実験参加企業間で取り決めを行うこととする。</div>	<div>【アクション】</div> <div>・卸が送信したSubscriptionを、取引先メーカーのホームDPに送信する。</div> <div>・マッチング成立後、メーカーDPより、商品情報(基本項目)を受信。</div> <div>(Global標準として規定されているアクション)</div>	<div>【アクション】</div> <div>・特になし</div> <div>【決定事項】</div> <div>・実証実験時の「商品マスタ登録」に関しては、商品情報提供タイミングは現状維持を前提とする。ただし、さらに早期化を行う場合には、実験参加企業間で取り決めを行うこととする。</div>	<div>【アクション】</div> <div>・なし</div>
<div>メーカーからの関係依存項目提供</div>	メーカー	メーカーDP	関係依存項目		<div>【アクション】</div> <div>・卸から依頼のあった商品の商品情報(関係依存項目)をGTIN単位でホームDPに登録する。</div> <div>・この時、商品情報は、「プライベート扱い」として登録される必要がある。</div> <div>【確認ポイント】</div> <div>・提供が必要な関係依存項目は、小売毎に異なることが想定される。そのため、円滑な情報提供を実現するためには、卸と小売の双方が必要な関係依存項目について、容易に共有できる仕組みの構築が必要となる。</div> <div>・バリデーションルール等の検討が必要。</div> <div>【技術的な検討課題として提示】</div> <div>卸がメーカーに対して、関係依存項目の入力を依頼する際は、卸・小売間と同じ仕組(関係依存項目まで含んだスキーマ、関係依存項目に対応した入力・閲覧のためのコントロール機能等)で情報共有できる必要がある。</div>	<div>【アクション】</div> <div>・登録された商品情報のバリデーションを行う。</div> <div>・卸DPの送信してきたSubscriptionを受信し、Publicationとのマッチングを図る。 商品情報の送付先リストの作成</div> <div>・マッチングが成立した卸DPに対し、商品情報(基本項目、関係依存項目)を送信。</div> <div>(Global標準として規定されているアクション)</div>	<div>【アクション】</div> <div>・卸は予め、メーカーに対してSubを出しておくことが前提となる。</div> <div>・また、卸はメーカーに対して、何らかの形で関係依存項目に関する情報提供依頼を出しておくことが必要となる。</div> <div>・提供が必要な関係依存項目は、小売毎に異なることが想定される。そのため、円滑な情報提供を実現するためには、卸と小売の双方が必要な関係依存項目について、容易に共有できる仕組みの構築が必要となる。</div> <div>・バリデーションルール等の検討が必要。</div> <div>【技術的な検討課題として提示】</div> <div>卸がメーカーに対して、関係依存項目の入力を依頼する際は、卸・小売間と同じ仕組(関係依存項目まで含んだスキーマ、関係依存項目に対応した入力・閲覧のためのコントロール機能等)で情報共有できる必要がある。</div>	<div>【アクション】</div> <div>・なし</div>	<div>【アクション】</div> <div>・なし</div>	<div>【アクション】</div> <div>・なし</div>
<div>小売への自動配信リスト作成</div>	卸DP	-	自動配信リスト	商談情報登録後	<div>【アクション】</div> <div>・なし</div>	<div>【アクション】</div> <div>・なし</div>	<div>【アクション】</div> <div>・なし</div> <div>卸はSubやPubを行わない運用を想定。</div> <div>卸が「商品情報登録」を行う際に、「ホームDPにおける小売への自動配信リスト作成」が、自動的になされる仕組の検討が必要。</div> <div>【技術仕様WGにおける検討課題として提示】</div>	<div>【アクション】</div> <div>・小売DPよりSubscriptionを受信する。</div> <div>・卸よりPublicationを受信した時点で、マッチングリストを生成する。</div> <div>(Global標準として規定されているアクション)</div>	<div>【アクション】</div> <div>・なし</div> <div>小売はSubを行わない想定。</div> <div>【技術仕様WGにおける検討課題として提示】</div>	<div>【アクション】</div> <div>・なし</div>
<div>商品情報送信</div> <div>検討課題2 「商品情報の同期化タイミング」に対応</div>	卸DP	小売DP	基本項目 関係依存項目	小売の指定する期日まで	<div>【確認ポイント】</div> <div>・実証実験時の「商品マスタ登録」に関しては、商品情報提供タイミングは現状維持を前提とする。ただし、さらに早期化を行う場合には、実験参加企業間で取り決めを行うこととする。</div>	<div>【アクション】</div> <div>・なし</div>	<div>【決定事項】</div> <div>・実証実験時の「商品マスタ登録」に関しては、商品情報提供タイミングは現状維持を前提とする。ただし、さらに早期化を行う場合には、実験参加企業間で取り決めを行うこととする。</div>	<div>【アクション】</div> <div>・マッチングが成立した小売DPに対し、商品情報を送信。</div> <div>(Global標準として規定されているアクション)</div>	<div>【決定事項】</div> <div>・実証実験時の「商品マスタ登録」に関しては、商品情報提供タイミングは現状維持を前提とする。ただし、さらに早期化を行う場合には、実験参加企業間で取り決めを行うこととする。</div>	<div>【アクション】</div> <div>・マッチング成立後、卸DPより、商品情報を受信。</div> <div>(Global標準として規定されているアクション)</div>

緑色網掛: ユーザが実際に行うアクション
黄色網掛: 業務運用WGにおける確認ポイント
青色網掛: DPへの要件となる確認ポイント

通知	小売DP	小売	通知	商品情報受信時	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・商品情報を受信した段階で、小売は小売DPから商品情報受信の通知を受ける。 ・小売は、通知の受け取り方について、事前に小売DPと取り決めるを行う。(予めValidationルールとして決定しておく。)現在のところ、受け取り方のパターンの想定は以下のとおり。 商談で取扱が決定した商品の商品情報(基本情報/関係依存情報)が全て届いた時点で通知。 商談で取扱が決定した商品の商品情報(基本情報/関係依存情報)が別々に届いた場合に、その都度、通知。	【アクション】 ・商品情報を受信した段階で、小売DPは小売に対し、商品情報の受信を通知。 ・商品情報受信時の通知の仕方は小売との取り決めによる。 【確認ポイント】 ・小売DPは、どのレベルまでの通知が実現可能か？(小売の要望に対し、現時点で、どの程度のレベルまでなら対応可能か？)
閲覧	小売	小売DP	基本項目 関係依存項目	通知受信以降	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・小売DPが受信した商品情報を閲覧する。 ・小売の指定するタイミングで、小売DPの商品情報は小売の商品マスタに取り込まれる。 - 閲覧確認後、取り込み - 取扱商品情報が全て揃った後、(確認無く)自動的に商品マスタに取り込み。	【確認ポイント】 ・現時点で、どのような閲覧ビューを準備できるか？ ・小売が、必要に応じて自社DBに取り込みを行うことができる仕組は提供可能か？ ・小売が商品マスタに対するデータ取り込みを実施する場合、どのようなサービス機能が提供可能か？
商品情報のステータス通知 検討課題3 「運用ルール、制約の具体化」に対応	小売DP	卸DP	受領確認 もしくは「商品情報のステータス通知」	商品マスタ取り込み後	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・なし	【決定事項】 ・卸としては、自社ホームDPへの商品情報の登録後、商品マスタ用に登録した商品情報が、小売ホームDPに届いたかどうか？ 取引 先小売が商品情報を自社マスタに登録し、取引が開始できる状態になったかどうか？ について、確認できる仕組が必要。 ・なお、 については、「商品マスタへの取込完了」を通知する際に、登録エラーがあれば、登録修正依頼も同時に通知される必要がある。 また、「卸営業マンの誰が商品情報を送信したか？」「小売バイヤーの誰が商品情報を確認したか？」に関するステータスも共有できるようにしたい。 基本項目だけでなく、関係依存項目を含めた、商品情報の取込状況を共有する仕組の検討が必要。【技術的な検討課題として提示】	【アクション】 ・小売DPから受け取ったCIC情報を管理(sync. Listとして)。 (Global標準として規定されているアクション) 【確認ポイント】 ・CIC以外に商品情報のステータスに関する管理は可能か？	【決定事項】 ・卸としては、自社ホームDPへの商品情報の登録後、商品マスタ用に登録した商品情報が、小売ホームDPに届いたかどうか？ 取引 先小売が商品情報を自社マスタに登録し、取引が開始できる状態になったかどうか？ について、確認できる仕組が必要。 ・なお、 については、「商品マスタへの取込完了」を通知する際に、登録エラーがあれば、登録修正依頼も同時に通知される必要がある。 また、「卸営業マンの誰が商品情報を送信したか？」「小売バイヤーの誰が商品情報を確認したか？」に関するステータスも共有できるようにしたい。 基本項目だけでなく、関係依存項目を含めた、商品情報の取込状況を共有する仕組の検討が必要。【技術的な検討課題として提示】	【アクション】 ・小売から受け取ったCIC情報(もしくは、マスタ情報取込完了通知)を、当該卸DPに送信する。 【確認ポイント】 ・「受け取った商品情報は全てsyncでCIC(もしくは、マスタ情報取込完了通知)を返す」というサービスの提供は可能か？

(2) 既存取扱商品マスタの変更

	誰から	どこへ	何を	いつ	どのように実現するのか？(オプション)					
					メーカー	メーカーDP	卸	卸DP	小売	小売DP
更新(追加、変更、削除)	卸	卸DP	基本項目 関係依存項目	マスタ更新発生時	【アクション】 ・ホームDPに対し、商品情報(基本項目)の更新情報を送信。	【アクション】 ・登録された更新情報に対するバリデーションを実施。 (Global標準として規定されているアクション)	【アクション】 ・ホームDPに対し、商品情報(関係依存項目)の更新情報を送信。 ・基本項目の変更は原則的にメーカーの入力した情報をそのまま利用。	【アクション】 ・登録された更新情報に対するバリデーションを実施。 (Global標準として規定されているアクション)	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・なし
商品情報送信	卸DP	小売DP	基本項目 関係依存項目	更新情報受信後	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・登録された更新情報に対するバリデーションを実施。 (Global標準として規定されているアクション)	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・登録された更新情報に対するバリデーションを実施。 (Global標準として規定されているアクション)	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・なし
通知	小売DP	小売	通知	商品情報受信時	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・更新情報を受信した段階で、小売は小売DPから更新情報受信の通知を受ける。 ・小売は、通知の受け取り方について、事前に小売DPと取り決めるを行う。(予めValidationルールとして決定しておく。)	【アクション】 ・更新情報を受信した段階で、小売DPは小売に対し、更新情報の受信を通知。 ・更新情報受信時の通知の仕方は小売との取り決めによる。 【確認ポイント】 ・小売DPは、どのレベルまでの通知が実現可能か？(小売の要望に対し、現時点で、どの程度のレベルまでなら対応可能か？)
閲覧 検討課題4 「マスタデータ登録後の更新差分の扱いについて」に対応	小売	小売DP	基本項目 関係依存項目 更新差分情報	通知受信以降	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・なし	【アクション】 ・小売DPが受信した商品情報を閲覧する。 ・小売の指定するタイミングで、小売DPの商品情報は小売の商品マスタに取り込まれる。 - 閲覧確認後、取り込み - 取扱商品情報が全て揃った後、(確認無く)自動的に商品マスタに取り込み。 この時、更新の差分情報がわかるようにされている必要がある。 【決定事項】 変更があった商品情報項目については、「どこが変更されたか？」「どう変更されたか？(追加、更新、削除等)」に関する差分情報がわかる必要がある。 ・加えて、変更がなされた商品情報項目に関しては、変更内容に関するコメントを添付できるようにしている必要がある。 上記要件を実現するための技術仕様(更新差分の明示、コメント欄の項目追加)の検討が必要。【技術的な検討課題として提示】	【確認ポイント】 ・現時点で、どのような閲覧ビューを準備できるか？ ・小売が、必要に応じて自社DBに取り込みを行うことができる仕組は提供可能か？ ・小売が商品マスタに対するデータ取り込みを実施する場合、どのようなサービス機能が提供可能か？ ・差分情報はどこまで持つことが可能か？

(3) メーカー製造中止になった場合の商品マスタからの項目削除

	誰から	どこへ	何を	いつ	どのように実現するのか？(オプション)					
					メーカー	メーカーDP	卸	卸DP	小売	小売DP
製造終了通知	卸(メーカー)	卸DP(メーカーDP)	製造終了通知	製造終了時	[アクション] ・なし	[アクション] ・なし	[アクション] ・ホームDPに対し、商品情報の更新情報(製造終了通知;有効終了日)を送信。	[アクション] ・登録された更新情報に対するバリデーションを実施。	[アクション] ・なし	[アクション] ・なし
製造終了通知送信	卸DP	小売DP	製造終了通知	製造終了通知受信後	[アクション] ・なし	[アクション] ・なし	[アクション] ・なし	[アクション] ・更新情報を小売DPに送信。 (Global標準として規定されているアクション)	[アクション] ・なし	[アクション] ・更新情報を卸DPから受信。 (Global標準として規定されているアクション)
通知	小売DP	小売	製造終了通知	製造終了通知受信時	[アクション] ・なし	[アクション] ・なし	[アクション] ・なし	[アクション] ・なし	[アクション] ・更新情報(製造終了通知;有効終了日)を受信した段階で、小売は小売DPから通知を受ける。 ・小売は、通知の受け取り方について、事前に小売DPと取り決めを行う。(予めValidationルールとして決定しておく。)	[アクション] ・更新情報を受信した段階で、小売DPは小売に対し、更新情報の受信を通知。 ・更新情報受信時の通知の仕方は小売との取り決めによる。 【確認ポイント】 ・小売DPは、どのレベルまでの通知が実現可能か？(小売の要望に対し、現時点で、どの程度のレベルまでなら対応可能か？)

(4) 小売側で取扱中止になった場合の商品マスタからの項目削除

	誰から	どこへ	何を	いつ	どのように実現するのか？(オプション)					
					メーカー	メーカーDP	卸	卸DP	小売	小売DP
取扱中止通知	小売	小売DP	取扱中止通知	取扱中止決定時	[アクション] ・なし	[アクション] ・なし	[アクション] ・なし	[アクション] ・なし	[アクション] ・小売が取扱を止め、これ以降、商品情報の提供を受ける必要のない商品に関しては、 -取引先卸のPubの取下げ -Reject のいずれかを実施する必要がある。	[アクション] ・小売から受け取ったSubの取下げ依頼、もしくは、CIC情報に対するバリデーションを実施。
取扱中止情報送信	小売DP	卸DP	取扱中止通知	取扱中止通知受信後	[アクション] ・なし	[アクション] ・なし	[アクション] ・小売が取扱を止め、これ以降、商品情報の提供を受ける必要のない商品に関しては、取引先卸がPubの取下げを行う必要がある。	[アクション] ・小売DPから受け取ったSub取下げ依頼、もしくはCIC情報を管理。 ・小売DPから受け取った内容に関して卸に通知を行う。	[アクション] ・なし	[アクション] ・小売から受け取ったSubの取下げ依頼、もしくは、CIC情報を、当該卸DPに送信する。 (Global標準として規定されているアクション)

SCM事業 業務運用サブWG 課題整理表

本WGにおける検討が必要な項目を網掛

	検討WG	課題内容	課題詳細	解決すべき方向性 (あればご記入願います)	事務局仮説(対応方針)	アクション別課題整理表との対応
	1 業務運用WG <u>要検討</u>	同期化する情報項目	誰がどの項目を入力するのか、役割分担を明確にしましょう		(対応仮説) ・原則的に、基本情報はメーカー・関係依存はベンダー側・個別項目は小売が入力する。	2) 商品マスタ登録プロセス (1) 新規取扱商品マスタ登録 商品情報登録
	2 業務運用WG <u>要検討</u>	商品情報の同期化タイミング	ご承知の通り、酒類・加工食品業界の多くのメーカーは、業界データベースに自社新商品を正式発表日(発売日の約1.5ヶ月～1ヶ月前)までに登録するというのが、業界ルールとなっております。今回の実証実験の業務範囲「棚割情報収集」「商品マスタ登録」の中で、小売業が必要とするタイミングを明確にしましょう		(対応仮説) ・実証実験時の情報提供タイミングは、現状維持を前提とする。(なお、さらに早期化を行う場合には、実験参加企業間で取り決めを行うこととする。) (WGにおける確認ポイント) ・「小売としては、いつまでに関係依存/個別も含めた商品情報が揃っていればよいか？」 ・「卸・メーカーとしては、いつまでであれば、関係依存も含めた商品情報を揃えることができるか？また、基本情報であれば、いつまでに揃えることができるか？」	1) 棚割情報収集プロセス 新規登録 2) 商品マスタ登録プロセス 商品情報登録 商品情報送信
	3 業務運用WG <u>要検討</u>	メーカーの情報公開から卸、小売の情報取込みに至るまでのそれぞれの場面での運用ルールまたは制約を具体的に提示すべき。	例えば、小売側はSubを毎回上げないという要件が出ているので、1回上げたら無期限に有効とするのか、また無効にする場合ははどうするのか等、場面毎の具体的な仕様を決めていくべき。特に仕組上業務要件に制約を加える必要があるような事項はすべて明示してほしい。	本来は要件定義の次工程で決定すればよい内容ではあるが、今回のプロジェクトのように仕様決定者が存在しない場合は、抽出された業務要件を実現する、または制約とするシステム仕様を早い段階で提示しないと後工程で手戻りするリスクが大きい。従って、不完全であっても運用レベルまで落とした仕様書はこの段階でどうしても必要と考えます。	アクション別課題整理表に整理	1) 棚割情報収集プロセス 商品情報提供依頼登録 Subの出し方 受領確認送信 CICの返し方 2) 商品マスタ登録プロセス (1) 新規取扱商品マスタ登録 商談結果登録 商談登録の実現方法 閲覧 CICの返し方
	4 業務運用WG <u>要検討</u>	マスタデータ登録後の更新差分の扱いについて	単に差分が分かればよいのか？登録者側の意図(追加/更新/削除等)も伝達される必要があるか??		(対応仮説) ・RDP側の機能として1世代前の履歴を管理し、更新情報が来た際に差分が分かるようにする。 ・追加/更新/削除等を把握できるようにするためには、情報提供者側で更新項目ごとに追加/更新/削除も合わせて登録することが必要となる。加えて、Schemaの大幅な変更を伴うこととなるため、方向性として上記の対応策を基本原則とする。 (WGにおける確認ポイント) 「どこが変わったかの差分だけが分かればよいのか？」 「どこがどう変わったか(追加/更新/削除等)までも分かる必要があるか??」	2) 商品マスタ登録プロセス (2) 既存取扱商品マスタの変更 閲覧
	5 業務運用WG <u>要検討</u>	帳合変更時の対応	帳合削除卸 新規帳合卸 の各対応が必要		(対応仮説) 運用側で対応することを原則とする。 ・帳合削除卸は小売側がトリガーを引いて削除(マスタ項目削除の応用) ・新規帳合卸はマスタ有効開始日を登録し、小売業に送信(マスタ情報新規登録) ・小売業側では同一GTINに対する「有効終了日」と「有効開始日」を確認したうえで自社マスタに取り込む (WGにおける確認ポイント) 小売が、下記を選択できるようにしておけば運用可能か？ 「有効終了日・有効開始日については受発注の有効終了・有効開始日で登録するか納品日ベースで対応するか??」 「帳合削除卸のマスタは有効終了日以降も小売業社内のマスターには一定期間は残す必要がある?(理由:商品在庫が残っている場合前帳合卸の在庫と新帳合卸の在庫を明確化し、返品・決済等に対応する必要があるため)」	2) 商品マスタ登録プロセス (3) 帳合変更

6	項目WGと 共同検討	同期化データ品質の担保方法	同期化が実現した場合、そのデータに関する責任範囲が明確になっていない。 メーカー・卸は現状保有、または小売の要望によって作成するマスタデータを小売に対し供給するが、入力ミス / 変換ミス / その他トラブルで間違ったデータを送る可能性がある。同期化によりデータ供給の多くが自動化されると思われるが、その内容が間違っていた場合の責任の所在が明確になっていない。	小売要望によるデータ供給の場合は、最終的に小売側でデータの品質確認をすることを前提に、供給側(メーカ / 卸)に責任を持たせない方向で検討するべきでは？	(対応仮説) ・原則的に、基本情報はメーカー、関係依存はベンダー側(メーカー・卸)、個別項目は小売が入力する。 ・各商品情報に関する責任の所在は、上記の入力者に当たるプレイヤーにあることとして整理する。	「課題1」の検討内容と関連して、アクション別課題整理表に反映
7	業務運用WG 資料に 反映	メーカー、卸、小売の役割	具体的にそれぞれが何をするのか？ (機能)		(対応方針) ・各業務プロセス(棚割情報収集、商品マスタ登録(新規登録、更新、帳合変更、・・・))ごとに、「"誰から""どこに""何を""いつ""どのように""して実施するのか?」を明示したシートを作成し、具体的なアクションを整理する。	アクション別課題整理表全体に反映
8	業務運用WG 資料に 反映	標準化する機能範囲が不明確	例えば、小売は新規商品情報を提供して欲しいとき		(対応方針) ・各業務プロセス(棚割情報収集、商品マスタ登録(新規登録、更新、帳合変更、・・・))ごとに、「"誰から""どこに""何を""いつ""どのように""して実施するのか?」を明示したシートを作成し、具体的なアクションを整理する。	アクション別課題整理表全体に反映
9	業務運用WG 資料に 反映	データプロセスの検討	(2/10打合せ時資料に基づいて)商品の基本項目を卸が変更しないという前提に立った場合、小売に基本項目を渡すのに、卸がスルーするというモデルの理由付けを明確に行いたい。	業務運用WGにて、説明 / 検討の時間をもうけていただければと思います。	(対応方針) ・卸・小売間の帳合の問題が関係ない場合、小売はメーカーからダイレクトに商品情報を収集することが可能。 ・帳合に応じた情報を収集する場合は、卸から情報発信する必要がある。 ・情報発信者は小売のニーズに依存することを想定。	「課題3」の検討内容の1つとして、アクション別課題整理表に反映
10	業務運用WG 資料に 反映	データプロセスの検討	(2/10打合せ時資料に基づいて)データ受領者(小売 / 卸)は、基本項目だけでなく価格なども含めたマスタ項目を自社システム(あるいはPIM)に取り込んだ時点で、マスタ情報受領のメッセージを返すを盛り込むべき。		(対応方針) ・マスタ情報受領のメッセージを返すことが必要であることを前提として、業務プロセスを整理。 (技術的な対応) ・マスタ情報受領を物理的に確認するのであれば着信確認(通信レベルではAS2のMDN、メッセージレベルではAcknowledgement)で十分かと思います。 ・また、マスタ情報の最終送信の際には、「これで(卸が)入力すべきマスタ情報が全部そろった形で送信する」というステイタスをつくり、小売に送信する必要があると考えます。(日本独自拡張要件)	「課題3」の検討内容の1つとして、アクション別課題整理表に反映
11	業務運用WG 検討済	棚割画像の取り扱い	CINに画像データを埋め込めるか？ (スキーマ拡張が必要と考えられる) 棚割り画像の種類は??(正面・上・底・右・左・背面・斜め)		(対応方針) ・棚割画像データは基本項目として扱うことを前提とする。 ・画像の受信対応策としては2通りが考えられる。 受信者は画像のリンク情報のみ受領する リンク情報(圧縮ファイル内の相対パス)と別ファイル(圧縮した画像ファイル)を受け取る (技術的な見地から、実験に際しては原則として を優先する)	

12	業務運用 WG 検討済	商品単品画像の取り扱い			(対応仮説) 画像提供サービスの一環として位置づけ、GDSプロセスとは別扱いとする。	
13	業務運用 WG 資料に 反映	課題ステータスの区別		"実験での課題"と"業務運用ルール策 定上の課題"を分けて明示して欲しい。 後者は、業務運用WG等で、3月以降も 継続的に検討を行いたい。	(対応方針) ・「現時点での検討課題」と「将来的に必要となる検討課題」 を区別して整理する。	
14	業務運用 WG 右記に 解説	用語の意味	"PB扱い"の意味を教えて欲しい。		・GDD(GlobalDataDictionary=GS1で規定されている商品基 本情報)の中にオプション項目として「プライベート扱い」の フラグがある このフラグをONにすると該当商品情報の送信宛先をGLN で指定することが必要となる。またこの状態でマスタ情報を DataPool等に登録しておいた場合、宛先GLN以外からの検 索が来た場合は見えないようになる ・商品マスタ登録時等、商談内容等が反映された状態で他 社に見せられない情報がマスタ情報に入ってきた場合、「プ ライベート扱い」をONにし、商品マスタ情報を個別のGLNに 配信することが可能となる。 ・「PB扱い」で商品マスタ情報を作成した後、同じように 「GLNによる宛先指定」のPublication(商品情報公開)を行 うことによって該当GLN及びそのGLNの所属するDataPool に商品マスタ情報が送信される	
15	業務運用 WG 別途対 応	SUB,PUB,CINではなく、もっと わかりやすい日本語にて表現すべき。 標準化、普及を意識するなら。			(対応方針) "用語集"による整理を行う。	
16	業務運用 WG 将来的 な課題	マスタ登録業務の位置づけ	EOS利用料のようにマスタ提供により小 売 卸へ費用が発生しないか危惧して います		(対応仮説) ・基本的には卸・小売間の取引条件に依存。	

	検討WG	課題内容	課題詳細	解決すべき方向性 (あればご記入願います)	事務局仮説(対応方針)	アクション別課題整理表との対応
17	個別対応	ホームデータールが個別に提供するサービス機能について	実験フェーズで実装するかどうかは別にして、現在整理されている業務要件を実現する際に必要と考えられるシステム上のサービス機能をすべて提示して頂きたい。(優先順位、制約条件等を含む)			
18	個別対応	実際の運用時の費用	メーカー・卸・小売各社が各DPを利用する際の料金はどのようなのでしょうか。小売側からするとマスタ提供に費用が発生する考えはないと思います。			
19	個別対応	前提条件が不明確	各DPは何を実装する必要があるのか？(システム、技術的に)			
20	個別対応	DPのサービス内容	その事例・機能概要等を説明する必要あり		事例・ガイドラインは提示できます	
21	技術仕様WG	棚割情報の公開(確認)	一般公開日前に特定の小売さんへの開示の際には、その小売さん以外への公開制御が適切になされるしくみが必要。	公開制御分科会での成果を反映する。	(対応仮説) GDD項目を利用して公開先制御を行うか、Pubメッセージを利用するかは要検討	
22	マスタ項目WG	関係依存情報および、個別情報について	想定しているマスタ項目との擦り合わせが必要(基本、関係依存、個別の各項目の振分けと項目毎の機能定義)			
23	技術WG マスタ項目WG	関係依存情報および、個別情報について	バリデーションチェックについて、個別要件を反映し実装する考え方を教えて頂きたい。			
24	マスタ項目WG	項目の標準化	各卸・小売業において同じ意味の商品情報項目が整理しないまま商品情報の同期化を行うと、商品情報の提供に時間がかかりリアルタイムでの同期化が図れない可能性がある。	個別項目の提供ができるようなシステムとしておくが、GDSの議論を製配販で行う際は2層以上で共有が必要な項目に絞って議論することが項目の標準化に繋がると思う。 中小卸・メーカーが参加できる仕組みとし、実験への参加を希望。		
25	マスタ項目WG	商品名(漢字・カナ)の文字数	各社、導入システムが異なる為、自社システムに取込む際に文字数があう・あわないの問題が生じます。あわない為に利用しないだとか、改めて品名を修正する作業が発生しています。			
26	マスタ項目WG	命名規約・略名	業界または各企業によって略名の統一が計られていない。自社規約にそうように洗い変えが発生しています。			
27	マスタ項目WG	ブランド名称	業界または各企業によって略名の統一が計られていない。自社規約にそうように洗い変えが発生しています。			
28	マスタ項目WG	商品分類	業界または各企業によって略名の統一が計られていない。自社規約にそうように洗い変えが発生しています。			
29	マスタ項目WG	項目に関して	例えば、卸から各小売に対しての条件(原価)提示は必要ないか？ 新規商品を小売が検索する場合に。			
30	マスタ項目WG	商品分類はJICFSを基準か？			(対応方針) 原則的に、Globalで定められた項目を利用することとなる。 仮にJICFS分類を日本標準分類とするならばGlobalへのChangeRequestが必要となる。 (実験に際してはとりえずJICFS分類で可。) 実用化に向けては、然るべき体制を作ったうえで検討が必要	

31	マスタ項目WG	項目の標準化（実験の範囲）	同期化する項目を基本項目、関係依存項目において標準化する。来年度の実証実験が今回限りでなく、実用化モデルの第1歩としての位置づけであるならば、最終形を目指すのではなく、必要最低限の項目での実験を行う。	将来への拡張性を残す配慮をしながらも、今回の検討の範囲を徒に広げないようにしましょう。	(対応方針) マスタ項目分科会を中心に検討する課題と考えます 具体的にはいったん業務プロセスの整理が落ち着いた段階で項目レベルの検討に入るべきと考えます
32	マスタ項目WG	項目の「定義」の標準化	メーカー/卸/小売における、各項目の「定義」の標準化が必要。例えば商品名や入数など各プレーヤーによって項目に対する認識が異なってくる。例えば卸・小売がいうブランドとは、多くの場合“メーカー名”をさす事が多いが、メーカーにおけるブランドとは卸・小売のいうブランド名称を含んだ商品名称を“ブランド”と認識することが多いなど。	製配販3層で選定された共有(同期化)項目を抽出し、各社の現状定義を調査した上で、その標準化をすすめる。3者中、2者が同様の定義を設定している項目については、それを標準定義とし、残る1者が項目を新たに設定することも検討すべき？	マスタ項目分科会を中心に検討する課題と考えます 具体的にはいったん業務プロセスの整理が落ち着いた段階で項目レベルの検討に入るべきと考えます
33	マスタ項目WG	小売業の同期化項目の選定	卸・メーカー間では「基幹に対するマスタ登録業務の効率化」を焦点に、卸同士の間で共有に関する検討会議がもたれ、メーカーに対し最低限必要な項目が何であるかを打話し、かつその安定供給がメーカー側からなされつつある。しかし小売における最大公約数的項目が何であるかが明確になっておらず、個別対応の方向が変わりにくい。	小売業間で最低限必要とする項目を選定を行い、それらに対する卸/メーカーから安定供給可能な項目を照らし合わせ、製配販3層の同期化項目を選定する。 小売に対する個別対応を無くすことは困難だが、その対応パターンを何種類かに集約することで製配販の業務効率化ができるのではないかな？	マスタ項目分科会を中心に検討する課題と考えます 具体的にはいったん業務プロセスの整理が落ち着いた段階で項目レベルの検討に入るべきと考えます
34	マスタ項目WG	個別項目の標準化	小売の「個別項目」を極小化する方策を具体化すべきである。	・標準化と基本項目への昇格の検討実施 ・個別項目は、本来、小売が自社の商品マスタに自ら登録する項目であるので、個別項目をメーカー・卸が登録することを前提とした表現は避けて欲しい。	
35	その他	中小メーカー・卸の参加	小売業・卸が必要とする商品を網羅する為には、中小卸・メーカーの参加が必須であり、GDSの為のインフラ整備が競争の障壁とならないようにする必要がある。	卸用データベースへの中小卸登録画面の機能搭載。中小メーカーも登録が可能なデータベースが必要。 中小卸・メーカーが参加できる仕組みとし、実験への参加を希望。	